

変革を導く羅針盤:ビジネスアナリシスの基礎から DX、AI との未来まで(1)

2026/6/20 BABOK to Business

Business Analysis is a professional discipline that analyzes a company's challenges and needs to create new value through transformation. It serves as a vital bridge connecting management with frontline operations, as well as business departments with IT. While its recognition as a specialized profession is still developing in Japan, its importance is rapidly growing as a key driver for DX (Digital Transformation).

The success of DX requires not merely the implementation of tools, but a fundamental transformation driven by business value. Therefore, Business Analysis is indispensable for leading the process from identifying challenges to materializing solutions.

In the future, AI will become a powerful partner, supporting data analysis and routine tasks, which will allow analysts to concentrate on more creative and strategic decision-making. Thus, Business Analysis is evolving with the times and has become an essential skill that determines a company's competitiveness.

1 Business Analysis とは何か

Business Analysis (ビジネスアナリシス) とは、企業や組織が抱える課題やニーズを的確に捉え、その解決策を導き出し、変革を支援するための一連の活動です。その目的は、ステークホルダー (利害関係者) 間の橋渡し役となり、組織の目標達成に貢献する「価値」を創出することにあります。単にシステム開発の要件を定義するだけでなく、事業戦略の理解から、業務プロセスの分析、組織構造の評価、そして新しいソリューションの導入による効果測定まで、幅広い領域を対象とします。国際的な標準知識体系である BABOK® (Business Analysis Body of Knowledge) では、ビジネスアナリシスは「ニーズを定義し、ステークホルダーに価値を提供するソリューションを推奨することにより、エンタープライズにチェンジ (変革) をもたらすことを可能にする専門活動」と定義されています。

す。経営層と現場、ビジネス部門と IT 部門の間に立ち、双方の言語を翻訳しながら、ビジネスの成功という共通目標に向かって組織を導く羅針盤のような役割を担う、極めて重要なプロセスです。

2 日本における Business Analysis の立ち位置

欧米では専門職として確立されているビジネスアナリストですが、日本におけるその立ち位置はまだ発展途上にあります。従来、ビジネスアナリシスの役割は、システムエンジニア (SE) が要件定義工程で部分的に担ったり、経営コンサルタントが戦略立案の中で行ったりすることが多く、専門職としての認知度は低いままでした。しかし、近年のデジタルトランスフォーメーション (DX) の加速や、ビジネス環境の複雑化に伴い、状況は変化しつつあります。技術導入ありきではなく、真のビジネス課題

を特定し、本質的な価値創造につなげる必要性が高まる中で、「ビジネスとITを繋ぐ専門家」としてのビジネスアナリストの重要性が再認識され始めています。大手企業を中心に専門部署を設置する動きも見られますが、体系的な人材育成やキャリアパスの整備は依然として課題です。今後は、企業の競争力を左右する重要な役割として、その需要と専門性がさらに高まっていくことが確実視されています。

3 DX 実現における Business Analysis の使い方

デジタルトランスフォーメーション (DX) の実現において、Business Analysis は極めて重要な役割を果たします。DX は単なるデジタルツールの導入ではなく、ビジネスモデルや業務プロセスそのものを変革し、新たな価値を創造する活動です。この変革を成功に導くため、Business Analysis は羅針盤として機能します。まず、現状の業務プロセス (As-Is) や顧客体験を徹底的に分析し、「どこに課題があるのか」「デジタル技術で何を解決すべきか」という本質的な問いを立てます。次に、関係者のニーズを整理・統合し、DX によって達成すべき具体的な目標やあるべき姿 (To-Be) を描き出します。そして、そのビジョンを実現するための具体的な施策、例えば新しい業務フローの設計、必要なデータやシステムの要件定義、さらには導入後の効果を測るための KPI 設定までを主導します。技術先行の「手段の目的化」に陥ることなく、常にビジネス価値を起点として DX プロジェクトを推進するために、Business Analysis の活用は不可欠と言えるでしょう。

4 AI を使った Business Analysis の未来

AI (人工知能) 技術の進化は、Business Analysis のあり方を大きく変革させる可能性を秘めています。未来のビジネスアナリ

シスにおいて、AI はアナリストの強力なパートナーとなるでしょう。例えば、膨大な顧客データや業務ログ、市場のトレンドといった非構造化データを含む情報を AI が瞬時に分析し、人間では見過ごしがちな課題の兆候や新たなビジネスチャンスのインサイトを提供します。また、会議の議事録やアンケートの自由回答といったテキストデータを自然言語処理 AI が解析し、ステークホルダーの要求を自動で抽出・分類することも可能になります。これにより、アナリストはデータ収集や整理といった定型的な作業から解放されます。その結果、アナリストは AI が提示した分析結果を深く解釈し、より創造的で戦略的な解決策の立案や、複雑な利害関係者間の合意形成といった、人間にしかできない高度なコミュニケーションや意思決定に集中できるようになります。AI との協業は、ビジネスアナリストの精度と速度を飛躍的に向上させ、企業変革の成功確率を高める鍵となるでしょう。